

石打小学校・上関小学校

保護者向け統合ニュース お知らせ版



統合協議会は校舎選定に向けて協議中です！

(令和2年9月4日発行)

令和2年8月6日に第2回目の統合協議会(午後7時より上関小)、8月25日に第3回目の統合協議会(午後7時より石打小)が開催されました。

第2回目の協議会では、校舎選定に向け協議を行いました。なかなか意見が出づらく、無記名のアンケートを実施し、それをもとに第3回目の協議会に臨みました。

令和4年4月に開校するには、本年9月までに校舎を選定し、校舎の改修に向けた設計を今年度中に行う事が必要となります。その期限が迫っている中で、第3回目の協議会では、冒頭に会長より、『石打区の子ども達のためにより良い環境を築き、ひとつの地区として新たな学校を考えていくことを協議する。』『協議会の委員として公平な立場を保つ。』『まずは子ども達のことを考える。』『協議会の代表として全員の発言を求める。』この4点を、委員で意思統一を行い、協議が進められました。

以下、協議内容について抜粋してお知らせします。

○**学校施設関係**では、改修箇所(プール、体育館屋根など)や教室の数と広さ等の比較をする。

石打小グラウンドの水はけの良さや、上関小グラウンドにはすぐ隣にトイレがあることなど。

○**スクールバス関係**では、距離基準による運行区域を説明。距離基準に満たない地域の乗車については、校舎選定後に通学バス部会で協議し、要望を検討する。

○**ハザードマップ**については、石打小は洪水時に50cm未満の浸水想定区域にあり、洪水の緊急避難場所に指定されていない。その時の避難は、垂直避難で2階・3階へ避難し安全を確保するなど。

○**学童**については、学校統合により学童も統合する方向で考える。どちらの学校になっても体育館2階ギャラリーを改修して定員を増やして対応する予定。

○**特色ある教育活動**については、地域の良さを生かし、教職員連絡会で両校の意見をもとに調整を行いより良いものにしていく。(スキー授業など)

全てをお知らせできませんが、多数の意見が活発に出されました。

★校舎選定の最終決定方法をどのようにするのかについては、次回第4回目(9月23日)に開催される協議会で、最終決定が出来るよう今後、各保護者代表委員が協議し、方針を検討することとしました。

<参考資料を裏面に掲載しましたので参考にしてください。>

石打・上関小学校児童の推移

1. 石打地区学校施設の状況

○施設の状況

学校名	校舎建築年度	校舎延面積	敷地面積	建築経年
石打小学校	平成3年3月	2,507㎡	16,723㎡	30
上関小学校	昭和60年7月	2,973㎡	19,537㎡	36

2. 児童数及び学級数の見込み

令和2年5月1日現在 (出典：小学校児童数調査) (注1) 児童数は現時点での出生数より把握。

年度	学校名	1年生	学級数	2年生	学級数	3年生	学級数	4年生	学級数	5年生	学級数	6年生	学級数	計	学級数
2	石打小学校	15	1	5	1	13	1	15	1	15	1	15	1	78	6
	上関小学校	6	1	18	1	7	1	21	1	8	1	14	1	74	6
	計	21	1	23	1	20	1	36	※1	23	1	29	1	152	6
3	石打小学校	9	1	15	1	5	1	13	1	15	1	15	1	72	6
	上関小学校	10	1	6	1	18	1	7	1	21	1	8	1	70	6
	計	19	1	21	1	23	1	20	1	36	※1	23	1	142	6
4	石打小学校	9	1	9	1	15	1	5	1	13	1	15	1	66	6
	上関小学校	14	1	10	1	6		18	1	7	1	21	1	76	5
	計	23	1	19	1	21	1	23	1	20	1	36	※1	142	6
5	石打小学校	5	1	9	1	9	1	15	1	5	1	13	1	56	6
	上関小学校	14	1	14	1	10	1	6		18	1	7	1	69	5
	計	19	1	23	1	19	1	21	1	23	1	20	1	125	6
6	石打小学校	8	1	5	1	9		9	1	15	1	5	1	51	5
	上関小学校	9	1	14	1	14	1	10	1	6		18	1	71	5
	計	17	1	19	1	23	1	19	1	21	1	23	1	122	6
7	石打小学校	7	1	8	1	5	1	9		9	1	15	1	53	5
	上関小学校	13	1	9	1	14	1	14	1	10	1	6		66	5
	計	20	1	17	1	19	1	23	1	19	1	21	1	119	6
8	石打小学校	6	1	7	1	8		5	1	9		9	1	44	4
	上関小学校	4	1	13	1	9	1	14	1	14	1	10	1	64	6
	計	10	1	20	1	17	1	19	1	23	1	19	1	108	6

※今回の学区再編は、児童数の減少傾向により、令和4年度には上関小で複式学級となることが見込まれる中、学校と地域が重要な役割を担っていることから、石打地区内で統廃合を考えることで決定しました。

※令和2年度、3年度に統合すると、令和2年度4年生・令和3年度の5年生は2学級を編成することができます。

※令和4年度(統合目標)に、石打小:66人、上関小:76人:合計142人

太枠に囲まれた学年が複式学級となります。そして、6年生が36人となるので2学級を編成することも可能となります。ただし、これは今年度の新潟県の方針に当てはめた場合であって、令和4年度にその方針が継続されるかどうかは確定していません。

※令和8年度(H31年4月2日～R2年4月1日までに生まれた0歳児10人が1年生となる)は、石打小と上関小の合計:108人

<学級編成基準> 複式学級とは?⇒2つの学年の児童により1学級を編成する。

○小学校・・・他の学年の児童と合わせ16人までのときは、これをもって1学級を編成する。

ただし、1年生を含むときは、8人とする。

複式学級編成上の特徴

複式学級の編成は多様であり、その年度の児童・生徒の数により単式学級、複式学級、欠学年などの変動が見られる。

※石打地区学校施設の状況及び児童数及び学級数の見込みの資料提供
南魚沼市教育委員会学校教育課より

第3回石打小学校・上関小学校統合協議会（2020/8/25） アンケート集計資料

校舎選定関連アンケート回収結果 ※アンケート配付枚数 26 枚 回収数合計 24 枚 回収率 92.3%

校舎選定についてのみ抜粋 理由 ※カッコ内に数字は同意見数、複数回答あり

○石打小学校

- ・校舎が新しい。(5)
- ・改修費用や改修箇所が少ないのではないかと。(3)
- ・グラウンドの水はけが良い。(当時、1番水はけが良いとして造られた。)(3)
- ・ランチルームを活用した食育指導や多くの人と交流する機会を持つことができる。(調理室が見える、他学年との交流、イベント利用スペース：保護者や地域の方)(1)
- ・UI交流の際、上関小体育館にコウモリの糞がたくさんあり衛生面で不安がある。(1)
- ・上関小は入口前の道路が狭く、バスの乗入れは広さ的に大丈夫か。(1)
- ・上関小にした場合、宮野下や上一日市が徒歩通学となり、通学路が変わり安全とは言えない。石打小にした場合、全員バス通学となり、石打小は今まで通りの通学路を利用できる。子ども達の日々の安全を優先して考えるべき。(4)
- ・今まで浸水の被害もなく、用水路も溢れたこともない。周りの道も見通しが良く車の量も少ない。(1)
- ・消防本部に近い。道路距離 7.2 ㌔。(上関小：9.9 ㌔、湯沢消防 8.6 ㌔)(2)
- ・児童数の減少傾向は統合後もある。必要最小規模の校舎を利用する方が今後の維持管理費も少なくなる。なお、教室は 40 人定員で造られているため、問題はない。(1)
- ・上関小にした場合、石打小区では塩沢小や中之島小の方が近い地域ができてしまい、隣接する学区へ流出する児童が出ることが予想され、見込みより児童数が減少する可能性がある。(1)
- ・上関小は観光の分野で利用価値がある。(1)

○上関小学校

- ・先行きの児童数が多い。(3)
- ・施設面が広く（教室、体育館、グラウンド等）部屋数も多い。子どもがのびのびと過ごせる。(7)
- ・特別教室が多く、学童クラブにも利用できるのでは。また保育園が近い。(1)
- ・体育館の暖房設備有。(災害時の活用もふまえて)(1)
- ・バスの費用が安く、回転場がある。周りの状況もつかみやすく安全。(5)
- ・ハザードマップ内で、洪水時の避難確保計画が明確でない。(3)
- ・災害エリアに入っていない。(2)
- ・スキー授業は、スキー場まで歩いて行ける。スキー授業の充実。(3)
- ・上関地区（行政区・住民）は学校と力を合わせ教育環境整備に取り組んできた経緯がある。(歴史・文化を育む桜木を守る活動、陸屋根の体育館・暖房設備、グラウンド内に直線 100m、一周 200mのコース、上関小南線・クロカンコースの設置等) またスキー教育の支援（スキー後援会・ジュニアスキークラブの成立、スキー学校、スキークラブによるボランティア活動等)(2)

○決めかねる

- ・耐震補強について、両校の問題はないのか。(1)
- ・教室の広さで、統合後の 6 年生 36 人が 1 クラスで大丈夫なのか。(1)
- ・廃校となった場合、上関小は別の利用価値がある。(スキー関係の施設に使用等) また石打小となった場合は、上関が全員バス通学となり安全。(1)
- ・子ども達が安全安心して通える学校になるのであればどちらでも構わない。(1)

《裏面あり》

その他

<バス関係>

- ・スクールバスの柔軟な運行を望む。(豪雪地域特有の措置を検討してほしい。)
- ・大型バスを使用する場合、旧道に入れるのか。
- ・バス通学の基準場所が公民館となっているが、2.5^キ以上を歩かなければならない児童がいると思う。
- ・どちらになったとしてもバスの運行費用を考えると中学生も含めたバス運行を検討して欲しい。(上田小は中学生と共有している。始業時間も問題ないと思われる。)

<施設・学校関係>

- ・統合となった場合、6年生が36人となる。2クラスになるのか。どちらも教室数が足りるのか。適応人数はどうなのか。
- ・統合後、140人の児童が石打小のランチルームで食べることができるのか。
- ・それぞれの改修費用や統合後の年間運営費等
- ・石打小は借用地があるようだが、現在の状況はどうか。
- ・歴史が古いのはどちらか。
- ・統合後も児童数が減少傾向にあることから、なるべく早期に塩沢小との統合が望ましいと考える。中学に入ってから少人数の小学校出身からの生徒が不登校になるケースが多いこと、塩沢地区の方が救急隊の到着が早いことから等。

<教育活動関係>

- ・市内小学校のアルペン授業が減っている。統合に当たり、上関が行っているスキー授業回数(3回、スキー大会1回)を継続して欲しい。また、実現させるために予算及び手法の試案や、教育長及び市の方向性として、アルペンスキー授業に対しての考えを示して頂きたい。
- ・上関の地域は日頃から学校への理解があり、社会科見学やスキー授業など協力的に地域が見守ってくれている。

<防災関係>

- ・ハザードマップからの災害想定で考えると、浸水被害が0.5m未満であるため、基礎の高さや周辺の高低差からも校舎に居れば安全は確保され则认为。浸水の状況に応じて縦避難(2.3階)を行うことになると校長先生の話があり、想定外の災害時の避難方法として可能と思う。また、想定外の話をするとうハザードマップが機能しないこととなるので想定内の話に収めた方が良いと思う。
近年、石打地区では魚野川護岸工事を進めていることから、石打地区周辺も想定した国土交通省の砂防事業改善に取り組んで欲しいと思う。

<学童・保育園関係>

- ・学童保育の利用は増加傾向にある。毎日の送迎等を考えると、各地区に施設の設置を強く望む。
- ・保育園も小学校の統合により、ひとつになるのか。(上田地区と同じなのか?)

<空き校舎関係>

- ・空き校舎の有効利用を早期に考えた方が良い。上関小はスキー場や民宿旅館等の宿泊施設が多いことから、体育館やグラウンドはスポーツの大会や練習場として使用できると考える。また地域行事等の使用も継続することが可能ではないかと思う。空き校舎の利用方法も可能であれば、本協議会からも要請書を作成し、協議してもらえ活動を目指してはどうか。

<協議会関係>

- ・協議会での話し合いで決まらない場合は、多数決もやむを得ない。
- ・校舎選定は児童の安全が第一と考えるが、保護者の意見が大切と思う。
- ・新型コロナウイルス第2波の緊急事態宣言が出て会議が出来なくなった場合は、令和4年開校でなくても良いのでは。
- ・上関小の校舎を利用し、校名は石打小で、校歌や校章は既存のものを使う等。
- ・協議会では、保護者のみの意見だけでなく、地域からも意見を聞いた方が良い。

以上

石打地区統合協議会資料（学校対比表）

項目	石打小学校	上関小学校	備考
所在地	君沢507番地2	石打2番地1	
創立年月日	大正15年8月31日（満94年）	明治25年4月1日（満128年）	
敷地面積	約16,700㎡	約19,500㎡	
学校用地借地面積	2カ所（2,580㎡、822㎡）	無	地目（宅地）
校舎面積（延床）	2,507㎡	2,973㎡	
普通教室(7室)	縦8.0m×横7.0m	縦9.0m×横7.0m	学年クラス数（6） 特別支援クラス（1）
特別教室	6部屋	8部屋	
	547㎡	855㎡	
	理科室、音楽室、図工室、家庭科室、コンピュータ教室、図書室	理科室、音楽室、図工室、家庭科室、コンピュータ教室、図書室、生活科室、視聴覚室	
体育館面積	1,094㎡	1,460㎡	
グラウンド面積	8,830㎡	8,866㎡	
建築年（校舎）	平成3年3月	昭和60年7月	
建築年（体育館）	平成2年1月	昭和62年1月	
耐震補強	○	○	昭和57年以降に建設された建物はすべて耐震済み。
駐車台数	約36台（校舎前東15、 校舎前西21）	約37台（体育館南18、 プール北19）	
消雪井戸	施工年深度不明、ポンプ 18.5Kw	H3 深度72m、ポンプ15kw	
※統合後の給食対応	可	可	上関小；給食用エレベータ有
	ランチルーム	各教室	
主な不良箇所	校舎：外壁、屋上防水	校舎：外壁、屋上防水 体育館：屋根改修 プール：要改修	
	内部の痛みは同程度		
その他特記事項	グラウンド状況良好 トイレ狭小	石打小に比べて外部の不良箇所が多数	
学童施設	体育館2階ギャラリー内 （学童保育室：定員16人）	体育館1階 （学童保育室：定員16人）	現在の規模
※統合後の対応 （定員35人として）保育室1.65㎡×35＝57.75	体育館2階ギャラリーを増設案（72.8㎡）	体育館2階ギャラリーを新設案（72.8㎡）	学童クラブも統合（予定）

スクールバス運行基準について

H19.6

1 スクールバス運行基準

- ・ 順路による片道の通学距離を原則とする。

区 分	距離基準	その他の特殊事情
小学校	2.5 k m	距離基準に準じた距離であり、かつ、交通事情、道路事情等特殊事情がある場合。
中学校	3.0 k m	

- ・ 通学距離は、学校から集落のおよそ中間地点までの図面上の計測値による。
- ・ 運行区域は、「通年」と「冬季間」の2区分とする。

2 特殊事情による運行区域について

(1) 特殊事情による運行区域とするかどうかの判断基準

- ① 通学距離が、距離基準（小学校：2.5 k m、中学校：3.0 k m）に準じた距離であること。
 - ② 交通量が非常に多く、かつ、歩道がない、あるいは歩道除雪が行われていないなどの道路事情があり、歩行に非常に危険が伴う。
 - ③ その他の特殊事情（統合、工事中など）
 - ④ 財政面での負担。
- ①～④を総合的に勘案し判断する。

(2) 審査会の設置

- ・ 距離基準又は特殊事情に該当するかどうか、また通年区分・冬季間区分について審査する機関（審査会）を設置する。

<参考>

○スクールバスの運行基準に当てはめた場合

石打小学校になった場合：上関小校区（上野・関・石打）⇒バス通学

上関小学校になった場合：石打小校区（大和・上一日市・宮野下）⇒徒歩通学

：石打小校区（南田中・砂押・大沢・君沢・下一日市）⇒バス通学

<統合によるスクールバス運行決定の流れ>

- (1)校舎の選定
- (2)教職員連絡会で、通学路を決定
- (3)統合協議会で設置する通学バス部会で、通学路の道路事情等を勘案して検討
- (4)市の審査会で運行内容を決定